

【書く・なぞる】俳句 正岡子規 四

くれなゐの 二尺伸びたる 薔薇の芽の

夜やすらふ 富士の煙の うすれゆく

糸瓜咲き 病名は死と 診定しけり

幾山河 越えさり行かば 寂しさの

曼珠沙華 どこまで行っても 道の果